

開業助産師の技「会陰保護」

講師：しづや助産院 院長助産師 澁谷貴子

助産師にとって会陰裂傷をおこさず分娩介助することは大きな目標だと思います。

今回、開業助産師の技「会陰保護」を知り実践に役立てたいと思う20代～30代を中心とした助産師の参加がありました。



先生のお話では、戦前から現代における社会の変化、環境の変化(女性が妊娠、分娩、子育てをする環境の大きな変化)についてありました。

戦前ほとんどのお産は自宅でした。地域で開業していた助産師達がひとりの家族と深く関わり2～3世代に渡り命をとりあげてきました。それぞれの助産師が独自の手技(てわざ)を誇りとし、お産の時に、昔から伝わる日本の子育てについて話をしていました。文化継承の担い手でもありました。助産師とその家族との間には、すでに信頼関係が出来ていました。

会陰裂傷をおこさない為には、技術はもちろんですが母親との信頼関係が最も重要であると言われます。母親が自分の身を任せられる相手である事、分娩する環境が心地良い場所である事、産まれてくる赤ちゃん、自分に今起こっている変化に向き合える精神状態である事、何より母親がリラックス出来ている事、が大きく影響していると。



現代では、医療機関でのお産が98%といわれています。多くの助産師は、大学病院や総合病院、クリニック等施設で働いています。そのような環境の中で、自然なお産が出来るのか?待つお産がどこまで出来るのか?と考えます。しかし、今回澁谷先生の講義を聴き、病院勤務の方々から“助産師としての役割がよくわかった”“産婦さんに対する気持ちが変わった”“待つ事の大切さがわかった”“助産師としての使命がある”など助産師として意識の変化がみられるコメントがみられました。制限された環境の中でも、今自分に助産師として何が出来るかを常に考え、母親に寄り添い関わっていく事、自分の意識を高めておく事で出来ることはたくさんあるのではないかと思います。

澁谷先生、お忙しい中、研修会をして頂きありがとうございました。

文責 教育委員 吉柳裕子